



FACULTY OF LETTERS

文学部生の リアルな!



13専攻・1プログラムから成る文学部の充実したキャンパスライフと、
文学部ならではの多様な学びの情報を発信します。



文学部人文社会学科西洋史学専攻4年
私立東京農業大学第一高等学校(東京都)出身

鈴木 夕陽

田本醜游記三ノ巻

覽会は日本画からネオポップまで幅広く鑑賞してきました。幅広い立場・世代の方とお話しし、未経験業種のアルバイトに挑戦し、未訪の飲食店を訪れる等々。もしかすると、この記事の執筆もその一環かもしれません。

「無知は恥」とまでは思いませんが、自分が知っている世界だけに閉じこもっていると退屈な考え方しかできないう気がして嫌なんです。それに加えて若いからという理由で経験が浅いと思われることが好きではないのかもしれません。尖っていますかね。

未知の世界に積極的に飛び込んでみる

大学に入学してからずつと意識して
いたことが一つあります。「自分にとつ
て未知の世界に積極的に飛び込んでみ
る」ということです。たとえば、私は
音楽を聴くのが好きなので、音楽ライ
ブやフェスにはジャンルや会場の大小
問わず、数えきれないほど足を運びま
した。美術にも興味があり、絵画の展



お気に入りのアーティスト平良四季さんの作品

それに個性はあるものの、自分と同じような価値観を持つている2人なので新しいことには常に前向きです。

業ですが、日本ツアーやの斡旋、日本文化に関する記事の執筆、SNSへの動画投稿、オリジナル教材の作成など活動内容はさまざまです。決して浅く広くではなく、その瞬間に必要だと思えばやり、必要ないと思えばすぐにやめ

大学3年生のときに他大学の友人2人と、オンライン日本語学習コミュニティ Terakoyaなるものを始めました。日本国外のことにもともと興味のあつた3人が自然と集まって始めた活動で、別のメンバー やメンバー 候補も何人かいましたが、現時点でのメンバー はこの3人に落ち着きました。1週間に1度集まり、次週までに各々がやつてく



Japanese Frequency Words



High	いつも	Itsumo	Always
よく	Yoku	Often	
しばしば	Shiba-shiba	Frequently	
ときどき	Toki-doki	Sometimes	
たまに	Tamani	Occasionally	
まれに	Marenii	Rarely	
ほんとう～ない	Hotondo - nai	Hardly	
全く～ない	Mattaku - nai	Never	

Low

作成したオリジナルテキスト



オンライン授業の様子

ます。自分たちがやりたいことと求められているもののギャップには度々驚かされていますが、需要と供給について考えているこの時間が一番楽しいです。Terakoya では、小さいものから大きいものまで目標まで細かく設定して活動しているので、達成した喜びを共有できるのも楽しいです。



Terakoya の SNS への投稿動画

初期から Terakoya の活動を応援していただいている。先日その方が、現地ではやっているサクランボの炭酸ジユースを、わざわざ私たち3人のために日本へ送ってくれました。同じく初期から Terakoya を応援していただいているインドネシアの女性は、私が Terakoya の授業でミスをしても、嫌な顔一つせずに受け入れてくれます。人の温かさに救われますね。

浅草でフリーツアーガイド

先日、ちょっとした好奇心から、メンバーや浅草でフリーツアーガイドをやろうと試みました。FREE TOUR と大きく印刷した紙を持って雷門の前に立ち、声を掛けられるのを待つていましたが、結果は大失敗でした(笑)。

敗因としては、① 東京都公式のフリー

フリットな思考ができる
人間に

タルが持たなかつたの2つが挙げられます。そこで出会つたアメリカ人男性に、初期から Terakoya の活動を応援していただいている。先日その方が、現地ではやっているサクランボの炭酸ジユースを、わざわざ私たち3人のために日本へ送つてくれました。同じく初期から Terakoya を応援していただいているインドネシアの女性は、私が Terakoya の授業でミスをしても、嫌な顔一つせずに受け入れてくれます。人の温かさに救われますね。

ツアーガイドさんにアドバイスをもらい参考にしたのですが、彼らはまず服装からしてとても目立つていました。『黄色のユニフォームに大きなつばのハット姿』には勝てませんでした。そして彼らは待つてはいるだけでなく自分からガンガン声を掛けにいき、ツアーガイドの存在をこれでもかと主張していました。②については、東京都のツアーガイドさんの様子を見て負けてられない3人別々に活動していたところ、1人が通りすがりの高校生にバカにされてギブアップでした。人の無情にもまた、成長させられますね。

異動のご挨拶と 学部運営

わたべ いっぺい
渡部 一平 文学部事務室

2025年7月1日付で文学部事務室に異動してまいりました渡部一平と申します。ご父母の皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

異動前はキャリアセンター理工キャリア支援課で、理工学部生および理工学研究科生の進路や就職に関する支援を行い、その後人事部人事課にて、教職員の給与や社会保険、所得税などの処理、専任職員の採用や研修の担当してきました。人事課では業務の性質上、学生と接する機会がほとんどなかつたため、数年ぶりに学生支援ができるることをとてもうれしく思っています。また、先生方と共に良い学部運営をしていくことも楽しみにしています。文学部事務室に異動してから間もない期間ではありますが、既に多くの学生や先生方と関わる機会があり、新しい環境での挑戦に前向きな気持ちでいます。

さて、私からは文学部の学部運営について紹

文学部だより

介いたします。文学部は少人数教育を基盤とした質の高い授業を実施しており、また多様な給付奨学金や履修相談などの授業に関するサポートが充実している等々、制度や支援体制が整備されています。

このようなカリキュラムや奨学金などの制度設計を行う際は、教職員が参加するそれぞれの委員会で意思決定をしており、担当の教職員が議論を重ねています。時には議論が白熱することもありますが、そのすべては「学生のため」という思いを持って考え抜いています。

また、相談窓口となる文学部事務室においては、学生生活や授業、履修、奨学金などさまざまな相談に対して、職員が一人ひとりの学生のためを思いながら対応しています。挑戦したいことがある際や、不安・困り事がある際など、何かあれば安心して事務室に相談できることをご子女にお伝えいただけますと幸いです。

このように教職員は「学生のため」という共通理念を持ち、学部運営を行っています。ご父母の皆さまには中央大学文学部が安心できる教育環境であることが伝わるうれしく思います。

にあつたと思うのですが、中央大学の東京出身がマイノリティかも知れないというほど、多様な学生が集まっています。そんな中で、プライベートでもと感じます。

文学部の西洋史学専攻にいたっては、東京出身がマイノリティかも知れないというほど、多様な学生が集まっています。そんな中で、プライベートでも

仲良くする友達に出会えたことは、とても幸せなことだと感じています。目先の損得や、世間体、自他の感情、将来性を取捨選択して判断する力を育てていけば、何歳になつてもワクワクすることをたくさん見つけられそうですね。皆さんはどんな世界に身を投じたのでしょうか？